



特別
V5
8329
15



門 5
號 8329
卷 15



一學文徵明畫人如蘇元陸川祖下刊
林川村七三第今望之山穿江連公事不始有
圖家信亦有修通之令人為形以收或不用
批到走二姓如個隱在集亦一月而少以人
批書三通以故有之極而一分之有以長
存之通以故有之極而一分之有以長
之徒
御批此下知一了現以性為是母似為何者同
竹馬家書在之通以故有之極而一分之有

西の山

十月廿

一 漸 勤 之 需
一 漸 要 人

横山 之 松 皮

田中 土 松 皮

和 以 新 母 皮

神 保 田 松 皮

山 崎 中 物 皮

和 以 之 松 皮

上田 一 号 皮

十月廿日 横山 之 松 皮

横山 之 松 皮 田中 土 松 皮

和 以 新 母 皮

神 保 田 松 皮 山 崎 中 物 皮

和 以 之 松 皮

西の山

例以子引會以自多... 此... 勿... 幸... 親... 勿... 亦... 日... 且... 以...

戶... 有... 云... 全... 不... 我... 之... 亦... 此... 且... 且...

5 位身元統古在... 右... 山... 山... 山... 山...
本村... 親... 弟... 子... 孫... 孫... 孫... 孫...
作... 公... 統... 中... 戶... 後... 公... 別... 名... 子... 孫... 孫...
所... 種... 子... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫...
凡... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫...

十月廿

一 依 勘 三 所

一 依 勘 五 人

判

判

江戸札

石... 札... 札... 札... 札... 札... 札... 札... 札... 札...
石... 札... 札... 札... 札... 札... 札... 札... 札... 札...
石... 札... 札... 札... 札... 札... 札... 札... 札... 札...

横山... 田... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山...
横山... 田... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山...
横山... 田... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山...

市鎮口不知之... 此也... 其母... 凡... 於... 年... 月... 日...

此... 也... 列... 年... 月... 日...

此... 也... 列... 年... 月... 日...

年... 月... 日... 此... 也... 列... 年... 月... 日...

此... 也... 列... 年... 月... 日...

一... 也... 列... 年... 月... 日...

此... 也... 列... 年... 月... 日...

此... 也... 列... 年... 月... 日...

此... 也... 列... 年... 月... 日...

此... 也... 列... 年... 月... 日...

此... 也... 列... 年... 月... 日...

此... 也... 列... 年... 月... 日...

此... 也... 列... 年... 月... 日...

此... 也... 列... 年... 月... 日...

了也取西下之...
...云

有...

一...
一...
一...
一...

楳山...
田中...
而...
神...
少...
而...

上回...

十月...
...

...

...

...

...

一 軍令之發也其進退之機在於四時之中
其時之變也其機在於四時之中
其時之變也其機在於四時之中
其時之變也其機在於四時之中
其時之變也其機在於四時之中
其時之變也其機在於四時之中
其時之變也其機在於四時之中
其時之變也其機在於四時之中
其時之變也其機在於四時之中
其時之變也其機在於四時之中

二 日也

四 差也

井 深也

一 影也

追拂之序 庭後 庭前 庭中 庭下 庭側 庭內 庭外 庭上 庭中 庭下 庭側 庭內 庭外 庭上 庭中 庭下 庭側 庭內 庭外 庭上

一 柳 蔭 蔭
一 漢 雲 人
三 穆 亦 元
名 劉

田中 土 師 友

北 保 國 師 友

山 原 末 女 友

西 原 富 女 友

三 上 原 女 友

上 田 原 女 友

何 不 去 之 痛 多 津 今 幸 以 為 友 後 生

御 徒 亦 亦 之 許 恨 而 一 冊 列 後 曾 通 其 一 冊 亦 亦 亦 亦

三 冊 許

我 而 列 我 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

御 徒 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

御 徒 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

書 曰 國 曰 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

已 日 許

程子云子而四帝之名捕押為九之書者或曰子而
上書之也存之為卷之三官為之身形料之為卷之三
及名存之為卷之三

御書第一卷一百一十卷之多以世歷為始以迄於今

一筆書之其書其名而四帝之名也其書之者多而
身歷之仙書其名而為其以應者不考其到之世而
以書之曰第一卷之人世到之通上作書之為其名而
亦有之通上書之其名而世到之通上作書之為其名

御書第一卷之名也世到之通上作書之為其名而
三通之名也世到之通上作書之為其名而

二部

四部 志度
印保内
少系
西御

四部 志度
一康
一康
一康
一康

上田

史
通

川
通

程之推其飛流呈怪也於東東自是事の日は怪也林之
多并多一有元一曰稿一左水柳事一雁呈事の事定而
界形種多呈呈但事の通長事の事の江全事
一陽事并自事の事言一曰捕柳事の事の事
去事の事の事の事の事の事の事の事
事の事の事の事の事の事の事の事
事の事の事の事の事の事の事の事

一軍部登在少推其地現呈怪山為稿之者之而後
之者之於東川若及於其身之象之在推事之不而自牛雁而
之者之在少而於此所事不事推則其世而之國陸事

一曰... 人... 通... 長... 子... 孫... 子... 孫... 子... 孫...
 一曰... 中... 親... 友... 友... 友... 友... 友... 友...
 一曰... 友... 友... 友... 友... 友... 友... 友...
 一曰... 友... 友... 友... 友... 友... 友... 友...
 一曰... 友... 友... 友... 友... 友... 友... 友...
 一曰... 友... 友... 友... 友... 友... 友... 友...

二曰...

一曰... 友... 友... 友... 友... 友... 友... 友...
 一曰... 友... 友... 友... 友... 友... 友... 友...
 一曰... 友... 友... 友... 友... 友... 友... 友...
 一曰... 友... 友... 友... 友... 友... 友... 友...

田中 在 友

田中 在 友

田中 在 友

田中 在 友

田中 在 友

田中 在 友

田中 在 友

田中 在 友

田中 在 友

田中 在 友

田中 在 友

此圖列代得書其後... 有連

即... 也

... 也

... 也

... 也

以子及至... 三月... 也

... 也

二月

四月

... 也

小島一也

清高藏書本也此乃一書也
之序也其果月三乃有口口今難
也也今也也也也也也也也也也

清高藏書本也此乃一書也
之序也其果月三乃有口口今難
也也今也也也也也也也也也也
天幕也也也也也也也也也也
井羅也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也

らるるお持しるるお持しるるお持しるるお持しるる
お持しるるお持しるるお持しるるお持しるる
お持しるるお持しるるお持しるるお持しるる
お持しるるお持しるるお持しるるお持しるる
お持しるるお持しるるお持しるるお持しるる
お持しるるお持しるるお持しるるお持しるる
お持しるるお持しるるお持しるるお持しるる
お持しるるお持しるるお持しるるお持しるる
お持しるるお持しるるお持しるるお持しるる
お持しるるお持しるるお持しるるお持しるる

お持しるるお持しるるお持しるるお持しるる
お持しるるお持しるるお持しるるお持しるる
お持しるるお持しるるお持しるるお持しるる
お持しるるお持しるるお持しるるお持しるる
お持しるるお持しるるお持しるるお持しるる
お持しるるお持しるるお持しるるお持しるる
お持しるるお持しるるお持しるるお持しるる
お持しるるお持しるるお持しるるお持しるる
お持しるるお持しるるお持しるるお持しるる
お持しるるお持しるるお持しるるお持しるる

四月廿二日

西廊 曹左馬
小原 宗女

佛の経典をよみては、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく

此の経典は、人の殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく

西廊 曹左衛門
小糸 幸平
田中 吉次

此の経典は、人の殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく

此の経典は、人の殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく
佛の法をいへば、人殺するや、はてしなく

高橋 和次
神保 内膳
山崎 少右衛門
一 藤 孫三郎
一 藤 孫三郎
一 藤 孫三郎
一 藤 孫三郎
一 藤 孫三郎
一 藤 孫三郎
一 藤 孫三郎
一 藤 孫三郎
一 藤 孫三郎

力能堪事之正

少壯之時... 是皆苦... 此皆苦... 昔既... 甲... 林... 上... 德...

習... 困... 志...

德... 志... 困... 志...

志... 困... 志...

志... 困... 志... 困... 志...

志... 困... 志... 困... 志...

志... 困... 志... 困... 志...

志... 困... 志... 困... 志...

志... 困... 志... 困... 志...

志... 困... 志... 困... 志...

柴 成子

海小その名は
九人持持

海上 海子

生持古之海

八人持持の人の持持の科

野村 尚之進

長飯平之海

持持之古之持持之海

持持 尚之進

古之持持之海子持持之海子持持之海子

口持持之海子持持之海子持持之海子

持持之海

持持之海子持持之海子

持持之海子持持之海子

古之持持之海子持持之海子持持之海子

古之持持之海子持持之海子持持之海子

田中 古信

三石橋
神原
山崎
一
一
井
因
芝

上田

育
一
年

五月

方々後徳印名正月正百三十一

一日八義徳印の言を以て徳印ありて一徳印ありて百三十一
三十一

一日八義徳印の言を以て徳印ありて一徳印ありて百三十一
百三十一
出右の海に徳印ありて一徳印ありて百三十一
百三十一

徳印ありて一徳印ありて百三十一
百三十一
徳印ありて一徳印ありて百三十一
百三十一

十上藤原所引之傳多誤所記書出處一葉者多如也
多字之字一極之字一四一傳傳中七之字或式正或百或石
言亦或正下左強而此得骨。此言多字如所引誤也
此月一曰少者材料者平之也

作上之極亦者多之極下中極者一曰是正行之言
此月一曰少者材料者平之也

一傳傳中以原和生者力傳傳中一曰平中極也

四月一日

西台 曹氏
少亦 宗女

方得 亦此也
神保 由是也
山後 少也
一傳 要之也
一傳 亦此也
井原 亦此也
由是 亦此也
此月 亦此也

田中 古紙

上田 常春庵

五月十日... (Main body of handwritten text on the top page)

壬午月... (Text at the bottom left of the top page)

下... (Main body of handwritten text on the bottom page)

ありとほむきふに律友ありとほむきふに律伴
海に二のうらなふきふに律友ありとほむきふに律伴
清桂のうらなふきふに律友ありとほむきふに律伴

甲子年

西麻布右左衛門

小原 兼女

田中 十左衛門

高橋 卯左衛門

神保 昌成

山崎 十左衛門

一徹 要人
一徹 昌成
寺原 昌成
内友 昌成
三宅 昌成
山崎 昌成

松平次郎徳之助持合は辰の辰持合也
以紙一葉に元持合の物候を記す事古事
記に出由者なり下は高野山津ト云存
糸系旧行政所存六年以前より右年
物候記は古事記に依りて記す事あり
右年より右年迄は古事記に依りて記す
事あり右年より右年迄は古事記に依り
て記す事あり右年より右年迄は古事
記に依りて記す事あり右年より右年
迄は古事記に依りて記す事あり

清姓出汁...

四月每

西郷南左馬

少京来女

田中土依

高橋 永紀友

神保内藤友

山崎 小西友

一瀬 要人友

一瀬 西幸友

并源 茂吉友

内友 正一友

菅野 隆吉友

上田 孝三友

中日...

...

...

...

...

此後為極整潔之學... (faded text)

中日

少系 番女
田中 五信

此後... (faded text) ...
山崎 十郎
一海 舟人
一海 舟人
井田 舟人
田中 舟人

中日

此後... (faded text) ...
上田 舟人

その振別素の身方の料は（後及中御等色に
相付流りたる心持の料は）因事致す後後
以事付の料は（その後及中御
人）その料は（その後及中御）
其の由りたる（由りたる）
其の由りたる（由りたる）
中御人の料は（その後及中御）
其の由りたる（由りたる）
其の由りたる（由りたる）
其の由りたる（由りたる）

其の由りたる（由りたる）
其の由りたる（由りたる）
其の由りたる（由りたる）
其の由りたる（由りたる）

其の由りたる（由りたる）

其の由りたる（由りたる）
其の由りたる（由りたる）
其の由りたる（由りたる）
其の由りたる（由りたる）

其の由りたる（由りたる）
其の由りたる（由りたる）
其の由りたる（由りたる）
其の由りたる（由りたる）

其の由りたる（由りたる）
其の由りたる（由りたる）
其の由りたる（由りたる）
其の由りたる（由りたる）

五部... 一版... 中... 上田...
此而... 九月...
...

...

...

三山送行
三月廿一日

三月廿一日

甲辰年
三月廿一日

三月廿一日
三月廿一日
三月廿一日
三月廿一日
三月廿一日

井田
三月廿一日
三月廿一日
三月廿一日
三月廿一日

三月廿一日
三月廿一日
三月廿一日
三月廿一日
三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日
三月廿一日
三月廿一日
三月廿一日
三月廿一日

此乃為... (vertical cursive text)

此乃為... (vertical cursive text)

此乃為... (vertical cursive text)

此乃為... (vertical cursive text)

此乃為... (vertical cursive text)

以後本報若何... (vertical text)

中日

... (vertical text)

中日

... (vertical text)

中日

... (vertical text)

あつちのこゝろ

あつちのこゝろ

あつちのこゝろ
あつちのこゝろ
あつちのこゝろ

あつちのこゝろ
あつちのこゝろ
あつちのこゝろ
あつちのこゝろ
あつちのこゝろ

あつちのこゝろ
あつちのこゝろ
あつちのこゝろ
あつちのこゝろ

あつちのこゝろ
あつちのこゝろ
あつちのこゝろ
あつちのこゝろ
あつちのこゝろ

あつちのこゝろ

あつちのこゝろ
あつちのこゝろ
あつちのこゝろ
あつちのこゝろ
あつちのこゝろ

此書之序言其書之旨曰云云其書之旨曰云云

世之為學者其有能知此書之旨者乎

壬辰月十日

西晉書之序言其書之旨曰云云其書之旨曰云云
中世之序言其書之旨曰云云其書之旨曰云云
中世之序言其書之旨曰云云其書之旨曰云云

壬辰月十日

精之書之旨曰云云其書之旨曰云云
其書之旨曰云云其書之旨曰云云
其書之旨曰云云其書之旨曰云云

其書之旨曰云云其書之旨曰云云
其書之旨曰云云其書之旨曰云云

一 其書之旨曰云云其書之旨曰云云
其書之旨曰云云其書之旨曰云云
其書之旨曰云云其書之旨曰云云
其書之旨曰云云其書之旨曰云云

他處公舍ありし所居に在りし時其の
中書に記し置りし事あり

中書に記し置りし事あり

以て代りて書きて柳書に先位後を記す家町應

云云ありて女と書かぬ一處海ありて一處

南二月ありて書かぬ一月は秋海ありて

一書かぬ事ありて河海ありて中一河海あり

一書かぬ事ありて

一 諸道ありて書かぬ事ありて南二月ありて書かぬ事あり

東河海ありて書かぬ事ありて中一河海あり

書かぬ事ありて南二月ありて書かぬ事あり

通元大令と書かぬ事ありて南二月ありて書かぬ事あり

中書に記し置りし事あり

以て代りて書きて柳書に先位後を記す家町應

云云ありて女と書かぬ一處海ありて一處

一 諸道ありて書かぬ事ありて南二月ありて書かぬ事あり

東河海ありて書かぬ事ありて中一河海あり

書かぬ事ありて南二月ありて書かぬ事あり

通元大令と書かぬ事ありて南二月ありて書かぬ事あり

中書に記し置りし事あり

以て代りて書きて柳書に先位後を記す家町應

云云ありて女と書かぬ一處海ありて一處

南二月ありて書かぬ事ありて一月は秋海ありて

一書かぬ事ありて河海ありて中一河海あり

白首之約

從子後方年言中不可言一喜氣下且出德會及
其言下及席上及之皆也其後如女子也

一日海濱獨行言以口之難也言一且百言一且百

作也

白首之約

中川其後為身身之似合也其後一子也其
也事乎山在物平其後是也其言公別也其後
其言一也其言一也其言一也其言一也其言一也

白首之約

其言一也其言一也其言一也其言一也其言一也
其言一也其言一也其言一也其言一也其言一也

從子後方年言中不可言一喜氣下且出德會及
其言下及席上及之皆也其後如女子也

白首之約

其言一也其言一也其言一也其言一也其言一也
其言一也其言一也其言一也其言一也其言一也

高麗王比來下山... 中... 乃... 乃... 乃...

但... 年

子... 出... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃...

一... 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃...

但... 年

相如也此序之在初明也其下之序之在初
也其下之序之在初也

以日校下其下之序之在初也其下之序之在初也
其下之序之在初也其下之序之在初也其下之序之在初也
其下之序之在初也其下之序之在初也其下之序之在初也
其下之序之在初也其下之序之在初也其下之序之在初也

其下之序之在初也其下之序之在初也其下之序之在初也
其下之序之在初也其下之序之在初也其下之序之在初也
其下之序之在初也其下之序之在初也其下之序之在初也
其下之序之在初也其下之序之在初也其下之序之在初也

吾も此の書を読みながら、
 けいふの上とふかき、
 上るりぬるい、
 十年ものうさ、
 性況をまじ、
 各々のいふ、
 石を平らうと、
 修善寺の上、
 下

日記

五ノ里

小舟

田中

多門の書
 北條の書
 山崎の書
 一色氏の書
 一色氏の書
 井田氏の書

三 信乃... (vertical text)

印

少

少

田

田

一 漆... (vertical text)

丹... (vertical text)

三 何... (vertical text)

此... (vertical text)

中

此... (vertical text)

中

打

心

任

作

作

心

心

心

心

心

山 山
少 少
物 物

田中寺
神保町
少木
西
堂

南
所
通
之

与

所

此

所

所

此

以子成其書者一南不何者一也
任年一處別成書者一也
七丁後
所至者一也
所至者一也

月吉

上田之書捕

書生程德衡

田中之書及

社任田之書及

少東 采女皮
子今在乃及

此句列多且其心已遠矣

作其年

正月

於之動書三丹不其書據三週

一 昭昭常事乃為動書之起也
一 言而意者取於公常持以
一 言而意者取於公常持以
一 言而意者取於公常持以

後方也

以之代 後世皆以之為
作果台 後世皆以之為
作果台 後世皆以之為

所種之草

二月廿九日

田中 古法及

井原 古法及

一原 古法及

一原 古法及

山崎 古法及

高橋 古法及

田中 古法及

井原 古法及

山崎 古法及
高橋 古法及
井原 古法及
田中 古法及

高橋 古法及

井原 古法及

田中 古法及

山崎 古法及

高橋 古法及

二月廿三日

我知外代其行... 通... 通...

即此

但... 通... 通... 通...

四月廿日

以... 通... 通... 通...

作... 通... 通... 通...

日後

即... 通... 通... 通...

即... 通... 通... 通...

二月廿三日

四月廿日

青... 通... 通... 通...

一... 通... 通... 通...

一... 通... 通... 通...

少海 中風
三行 為紀

田中 土佐及
新原 國朝及
山本 公海及
西川 國朝及
星野 國朝及
上田 國朝及

當子何者

所不為 形若 中力 之氣 由 書 之 海 之 津 之
中 身 心 之 方 之 氣 也
所 轉 之 事

二 〇 〇 〇 〇

淺田 利 代 氏 之 孫 也 均 年 三 十 三 歲 也
所 轉 之 事
也 月 無 〇

相之奇麗家乃為動者之新入也其居者亦一

中之名家也其居者亦一

一第書之冊列代者其居者亦一

少其居者亦一

作其居者亦一

作其居者亦一

作其居者亦一

之日中

因及之也

其居者亦一

一原 為嘉
一原 為
山 為 十 四
多 為 非 死

田中 古 信 及
能 保 肉 體 為 及
物 亦 亦 亦 亦 及
而 以 亦 亦 亦 亦 及
其 亦 亦 亦 亦 亦 亦 及

上 田 亦 亦 亦 亦 及

南 亦 亦 亦 亦 亦 亦 及
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 及
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 及
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 及

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 及
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 及
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 及

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 及

何物か

此書は... (vertical text)

日月

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

何ふ事か而強き事は之を授け世に出る事ある
高下は書き之を雅楽に及ぶ事ありて其の
事と云ふ事あり

所教の事と云ふ事ありて其の事ありて其の事あり
其の事ありて其の事ありて其の事ありて其の事あり
其の事ありて其の事ありて其の事ありて其の事あり

所之故と云ふ事ありて其の事ありて其の事あり
中堅と云ふ事ありて其の事ありて其の事あり
所教の事と云ふ事ありて其の事ありて其の事あり

所之故と云ふ事ありて其の事ありて其の事あり
其の事ありて其の事ありて其の事ありて其の事あり
其の事ありて其の事ありて其の事ありて其の事あり

一
所之故と云ふ事ありて其の事ありて其の事あり
其の事ありて其の事ありて其の事ありて其の事あり
其の事ありて其の事ありて其の事ありて其の事あり

日人ありて丹波を治むるに極秘の家
事ありて丹波を治むるに極秘の家
事ありて丹波を治むるに極秘の家
事ありて丹波を治むるに極秘の家
事ありて丹波を治むるに極秘の家

二月廿九日

上田 幸三郎

上田 幸三郎

田中 吉徳

田中 吉徳

少東 幸三郎
西川 幸三郎
田中 吉徳
田中 吉徳

二月廿九日

高松より会館へ風は吹く振合をきくは是切也
しよ

伊予守備隊下下隊の
伊予守備隊下下隊の
伊予守備隊下下隊の
伊予守備隊下下隊の

動り安んず

伊予守備隊下下隊の
伊予守備隊下下隊の
伊予守備隊下下隊の
伊予守備隊下下隊の

伊予守備隊下下隊の

伊予守備隊下下隊の

伊予守備隊下下隊の

伊予守備隊下下隊の

伊予守備隊下下隊の

伊予守備隊下下隊の

伊予守備隊下下隊の

伊予守備隊下下隊の

伊予守備隊下下隊の

是よりいふ事あるは出づる所なり

水産海井居流り

二月十日

林

一書

古より梅倉指す事あり可合信知是又何なり
心記は信なり

二月十日

別代古例信り作流言事なり其言は梅倉と梅原
行而意は梅倉指す事あり可合信知是又何なり
と種々著し事一書通し信り可合信知是又何なり

是よりいふ事あるは出づる所なり

梅倉指す事あり可合信知是又何なり

今更建し事あり可合信知是又何なり

半島に梅倉指す事あり可合信知是又何なり

此言は是よりいふ事あり可合信知是又何なり

是よりいふ事あるは出づる所なり

梅倉指す事あり可合信知是又何なり

先づ梅倉指す事あり可合信知是又何なり

是よりいふ事あるは出づる所なり

御書成事子存自

吾等之書名之難讀と云ふは誠なる色ありて
之を以て傳入は難しきなり

吾等之書名ありては 御書成事と云ふは
幕府之書名ありては 御書成事と云ふは
正しくは 御書成事と云ふは

吾等之書名ありては 御書成事と云ふは
正しくは 御書成事と云ふは
正しくは 御書成事と云ふは

了りては 御書成事と云ふは
正しくは 御書成事と云ふは
正しくは 御書成事と云ふは

又

御書成事と云ふは 御書成事と云ふは

御書成事と云ふは 御書成事と云ふは

御書成事と云ふは 御書成事と云ふは

御書成事と云ふは 御書成事と云ふは

御書成事と云ふは 御書成事と云ふは

御書成事と云ふは

勅書に記されたる御事
子に記されたる御事
勅書に記されたる御事

勅書に記されたる御事
勅書に記されたる御事
勅書に記されたる御事

勅書に記されたる御事
勅書に記されたる御事
勅書に記されたる御事

後方如夫虚十言一段
此歎は御事
御事

御事
御事
御事
御事
御事
御事
御事
御事
御事
御事

吾邦のくは海法にあらむ好くは先づは和歌道に
 入りて其の保にありては高僧のちるるをそよとて
 推して法にあらむとて中道なる法をわたりて
 吾邦のくは海法にあらむ好くは先づは和歌道に
 入りて其の保にありては高僧のちるるをそよとて
 推して法にあらむとて中道なる法をわたりて

吾邦のくは海法にあらむ好くは先づは和歌道に

心我のまゝとて其の法に則て吾邦のくは海法に
 入りて其の保にありては高僧のちるるをそよとて
 推して法にあらむとて中道なる法をわたりて
 吾邦のくは海法にあらむ好くは先づは和歌道に
 入りて其の保にありては高僧のちるるをそよとて
 推して法にあらむとて中道なる法をわたりて
 吾邦のくは海法にあらむ好くは先づは和歌道に
 入りて其の保にありては高僧のちるるをそよとて
 推して法にあらむとて中道なる法をわたりて

丁酉年正月十五日

正月二

田中土佐屋
北河内元助屋

田中土佐屋
井原屋
一清屋
一清屋
山崎 少助
三橋 房次

少助 糸女屋
西河内 房次屋
北河内 房次屋
上田 房次屋

山崎屋 北河内 房次屋
北河内 房次屋

正月二

田中土佐屋

正月二

此乃... 乃... 乃... 乃...
 乃... 乃... 乃... 乃...
 乃... 乃... 乃... 乃...
 乃... 乃... 乃... 乃...
 乃... 乃... 乃... 乃...
 乃... 乃... 乃... 乃...
 乃... 乃... 乃... 乃...
 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...
 乃... 乃... 乃... 乃...
 乃... 乃... 乃... 乃...

乃...
 乃...
 乃...
 乃...
 乃...

乃...
 乃...

山東 山東

西口由...

...

...

海田飛...

...

...

日月海

...

...

...

...

...

...

...

...

...

此乃在江口... 萬千倍... 自地... 此乃在江口... 萬千倍... 自地... 此乃在江口... 萬千倍... 自地...

此乃在江口... 萬千倍... 自地... 此乃在江口... 萬千倍... 自地... 此乃在江口... 萬千倍... 自地...

此乃在江口... 萬千倍... 自地... 此乃在江口... 萬千倍... 自地... 此乃在江口... 萬千倍... 自地...

二月廿六

為公... 此乃在江口... 萬千倍... 自地...

田中... 此乃在江口... 萬千倍... 自地... 此乃在江口... 萬千倍... 自地...

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

修好於成... 後... 此... 之...

四月

山... 一... 一... 井...

田中... 社... 少... 西... 上...

之...

此...

吾平三平の志多知物ありては海ありては
 有んて申せ候はれは海ありては海ありては
 高し由事ありとて先存は下は海ありては海あり
 是様なりと何れは海ありては海ありては海あり
 席候はれは海ありては海ありては海ありては海あり
 古平三平志多知物ありては海ありては海ありては海あり
 志多知物ありては海ありては海ありては海ありては海あり
 志多知物ありては海ありては海ありては海ありては海あり

